

平成30年度・第2学期終業式校長式辞

H30・12・21（金）

こうして舞台の上から改めて皆さんの姿を眺めています。ずいぶん立派になりましたね。誰も頭も動かすことなく下を向く生徒も一人もなく、真剣に話を聴く態度で式を迎えています。本当に皆さんのここまでの成長が嬉しいです。

今日は皆さんに心の健康という話をします。先ほど各学年の代表の生徒さんから2学期を振り返ってという素晴らしいお話を聴きました。その中で2年生のSくんも話していましたが、私も修学旅行に同行していましたので修学旅行中に感動したことをこれからお話します。聴いて下さい。京都市内の班別行動での出来事です。嵯峨野のトロッコ列車に乗った2年生のある班の生徒たちは予約をしていた席に座ろうとしました。しかしその席には驚いたことに別の外国人が座っていたのです。いわゆるダブルブッキングが起こったのでした。その時2年生が取った行動は、自分たちの予約が正しいにも拘わらずその外国人の皆さんに席を譲ったのでした。そしてSくんはその後の思いを今、”また違った景色が見られて良かった”と言ってくれたのです。自分たちは何も悪くはないのに、ついていないと悲しんだり相手を責めてもいいのに、そして不平不満を言ってもおかしくはなかったのに、その出来事をポジティブに捉えて”また違った景色が見られて良かった”と心の捉え方や感じ方を修正していたのでした。この心の持ち方や感じ方は大人でもできないことです。これこそが心が健康な人の持つ物の捉え方や感じ方なのです。目の前にトラブルが起こっても冷静にそして誰も傷つけない的確な立ち居振る舞いができた生徒たちは、素晴らしい健康な心の持ち主と言えるでしょう。心から感動しています。

更に身近な例を挙げます。皆さんの周りで誰かがくしゃみをしたとします。するとどうでしょうか。すぐにティッシュを持っていく人もいれば、大丈夫と声をかけて心配する人もいます。逆に何でマスクをしないんだとか風邪を移さないでほしいと思う人もいます。どちらの感じ方が健康な心の持ち主なのでしょう。またある行為が原因で親や先生に叱られた時も同様です。自分だけじゃないのに、〇〇だってやっていたのに、〇〇のせいで叱られた、見ていないところなら良いと思ったことはありませんか。このように感じる心は、不健康な心を持つ人です。健康な心を持つ人は一言で終わります。「ごめんなさい」・・・です。決して他人に責任を転嫁しません。人は誰でもくしゃみや間違いをするのに、他人のくしゃみや自分の間違いにはこのように自分勝手な感じ方や捉え方をします。同じ事象や現象を見ても人それぞれ感じ方や捉え方が違うのが私たち人間ですが、心の健康が損なわれる感じ方をすると心と体を不安定にします。すると心が安定しないことで現実を受け止めることができず、正しい判断や行動がで

きずに穏やかで幸せな生活ができなくなるのです。

健康な心すなわち穏やかな心をつくる一番の近道は、他者や周囲のために自分のできることを惜しみなく行うことです。人の役に立つ行為・行動ができる人は、人から感謝やお礼を受け取り、心が満たされ笑顔が自然と湧き上がってくるものです。人と自分を比較したり、人を恨んだり憎んだりすることもなく、周囲の人や環境に自然と感謝する心が生まれ、心は常に安定します。どうか人のために役に立つ人へと成長して行ってください。今の西中生ならば必ずできると信じています。すると西中学校は益々素晴らしい学校へと成長していけます。

いよいよ今年度も残り3ヶ月となりました。3年生と生活できるのも後わずかになりました。とても寂しいです。どうか自分の進路に向かって精一杯頑張ってください。君たちの春は必ずやってきますから・・・。2年生、君たちは本当に立派な修学旅行をやり遂げてくれましたね。そして何よりも健康な心を持つ人が増えてきています。素晴らしいことです。最上級生としての君たちの姿に期待しています。そして1年生、とても挨拶ができるようになりましたね。君たちもここまで着実に成長してきています。4月から先輩として下級生のお手本になって下さいね。最後にこの年末年始、交通事故等に気をつけ、また元気で皆さんとこの場で会えることを楽しみにして、2学期の式辞と致します。

ふじみ野市立大井西中学校
校長 山崎 祐一

